

リーディングDXスクール事業【実践事例】

山形県立酒田光陵高等学校（山形県）【指定校】

【取組内容②】 教科・学科を横断した、情報活用能力の育成

◆ 目的

- 各学科間にある情報活用能力の差に対し、Chromebook端末の利活用能力を一定の基準を担保することで、各教科におけるICT活用の導入をスムーズにし、授業での利活用を推進する。
- 学科や部活・課外活動でも生徒が積極的に活用できるようにする。

◆ 実施内容

学科横断の統一教材作成	情報活用講座	全校情報モラル講座	ICT公開授業
 Classroomより参加 GoogleClassroomで対応するクラスを開き 「クラス」の上に追加された、 ビデオのマークをタップして、開始する。 ここをタップ！ ➢ 学科間で指導内容を統一し、共通教科や課外活動でのスムーズなICT利用を行う ➢ 「Chromebookの使い方」「校内のネットワーク活用」「情報モラル」「クラウドストレージの使い方」	 ➢ 1年次全学科 1時間実施 ➢ 情報科教員が実施することで、最低限のできることの統一 ➢ 「情報モラルとセキュリティ」「GoogleWorkspaceの使いかた」	 ➢ 毎学期末に全校生徒を対象にモラル講座を実施 ➢ 「情報モラル」「酒田光陵高校生成AIポリシー」	 ➢ ICTの活用や生成AIの教育利用をテーマとした公開授業を実施

◆ 成果・変容

- これまで学科間でChromebookの活用に差があり、授業での利用において、学科によって「使い方の指導」から始めなければならずハードルがあった。その差を解消し、授業での積極的な導入を図ることができた。
- ネットワーク環境等のハード面でも同時に整備を行い、校内ほぼすべての教室・実習室でwifiが利用可能となったこともあり、課外活動でも積極的に活用する様子を見ることができた。